



TITLE:

スンバケンボ全集の版本について

AUTHOR(S):

策冷呢嘛

CITATION:

策冷呢嘛. スンバケンボ全集の版本について. 東洋史研究 1948, 10(3): 154-154

ISSUE DATE:

1948-07-15

URL:

<https://doi.org/10.14989/138880>

RIGHT:

スンバケンボ全集の版本について

本誌八一頁「蒙古學問寺」の紹介の所にスンバケンボ全集の版本發見の事を特筆しておいたが、その後長尾氏の所へ御伺ひした折、多田等觀先生からの通信を示された。それは「學問寺」の讀後感と云つたやうな内容のものであつたがその中スンバケンボ全集に關する記事だけを轉載していただく。「ウストの法禧寺にてスンバケンボ全集の版本を御覽なつたとの事詢に幸福な事でした。その第一帙にあるバクサムジョンサンの版本も親しく現場で御覽になつた由、さてその版本に脚註が刻されてありましたか御尋ねいたします。小生ダ

イチリンにてダス氏と會つた時、彼師に出版されたバクサムジョンサンの底本のことに就き御尋ねした事がある。その際アムド方面の版だとのことで確たる藏版寺が分つて居なかつた。それから脚註のことに及んだがその底本となつたアムド本には脚註があつたとの事です。そればそうでせうあの位の脚註がダス先生が付せられるわけではないから。そこで御尋ねしたようなわけです。またバクサムジョンサンの如き性質の本は何處でも出版される筈のものでないからウストに現存するものは蒙藏にかけて唯一無二のものと思はれますが。嘗てこの印刷に關して徳王政府に依頼しましたが實現されず今に至つて残念に思ひます。北京の予（以下三四頁下段へ續く）

(一四頁より)道泉君が印刷に出かけた話を聞いて居るから彼は持つて居る事でせう云々。」

脚註の有無については長尾氏は全く記憶がないと云ふ。小生もその時現場に居合はせたのであるが何しろ版木を鏡で逆寫して讀まねばならぬやうな状態であつたから之亦記憶がない。北平圖書館所藏のものは恐らく多田先生が傳聞して居られる千道泉氏の將來品と思はれるがそれを實見した時もそこまでは氣がつかなかつた。しかし多田先生の云はれるやうに、若し脚註があつたらダス氏の底本と云ふ事になり、少くとも現在までの所ウストのものはスンバ全集の唯一無二の版木と云ふ事にもなるであらう。兎も角こゝにも將來日華學界の聯絡再開によつて解決せられねばならぬ宿題があるやうだ。〔策冷呢嘛〕